

## ～ピピオからのお知らせ掲示板～

### ・寄付等のご協力ありがとうございました

平田様、中森様、梅本様、小武家様、能地様、片桐様、瀬戸様、米澤様、山崎様、井上様、コストコホールセールジャパン(株)様、堀様、細本様、中本様、新江様、吉本様、中川様、上原様、入江様、吉崎様、友廣様、深谷様、山下様など多数の方々から寄付(金銭、商品券、家電製品、生活用品など)を頂いております。日々の子どものたちの生活やより充実した自立支援のために活用させていただきます。この場をお借りして御礼申し上げます。

### ・生活用品の募集をしています

ピピオ子どもセンターでは、ピピオの家から巣立つ子どもたちへの生活用品(家具家電含む)等の提供を行っており、今後は、自立援助ホームから巣立っていく子どもたちにも提供していきたいと考えています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

### 平成26年9月末日時点の会員数

正会員 (個人)	93名	正会員 (団体)	4団体
賛助会員 (個人)	62名	賛助会員 (団体)	2団体

### 事務局雑記

○ピピオ子どもセンターの事務局は、5月に広島市中区上幟町に移転しました。事務室は旧浅野家庭園の縮景園に面しています。ベランダの向こうに緑が広がり、鳥の鳴き声が聞こえ、仕事に気乗りしない時など、ついつい外を見ながらボーッとしてみえるのどかな環境です。

○「集団的自衛権」で思い出しました。ピピオの家にいる子に「バブルって、いつ崩壊したん？」という厳しい質問をされ、「確か●年。でもその後もまだ世の中浮かれていてね…」ともしっかり話をしたことがあります。質問したBさんへ…(=^-^=) あとで調べたら2年まちがってました…。

○自立援助ホーム「はばたけ荘」がスタートしました。ホームも子どもたちとともに成長していければいいなと思います。みなさんのご支援をよろしくお願いします。



# ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～  
vol. 13

平成26年9月30日

## 男子の自立援助ホーム「はばたけ荘」を開設しました

皆様には、当法人の活動に対し様々な形でご支援を頂き、大変ありがとうございます。

私たちは、親子関係のこじれや虐待など様々な事情で帰るべき家がない子どもたちに寄り添っていきこうと、女子専用子どもシェルター「ピピオの家」を立ち上げ運営してきました。

しかし、同様の事情を抱えた男子がいるにもかかわらず、広島県内にはシェルターや自立援助ホームがないことから、男子のための施設を立ち上げようと準備を進めてきました。そして、このたび男子専用の自立援助ホーム「はばたけ荘」を開設し、去る9月1日から運営を開始しました。開設にあたり、多くの市民の皆様のご支援を頂き、この場を借りて御礼申し上げます。

自立援助ホームは自立をめざす子どもたちのための施設で、ここに居住して就労しながら、資金を貯め、また自立のための生活力を培い、アパートでの一人暮らしや会社の寮への入居を目指します。そして、この間スタッフや子ども担当弁護士が子どもたちの相談にのり、アドバイスをしていきます。また、巣立った子どもたちに対しても必要に応じてアフター支援をしていきます。「はばたけ荘」は広島市西区に一軒家を借りて開設し、定員は6名です。「はばたけ荘」という名は、子どもたちに勇気をもって明日への扉を開き、自分らしくはばたいていってほしいとの願いを込めてつけました。

私たちは、「はばたけ荘」の開設に伴い、新たな決意で居場所のない子どもたちに寄り添い、支援をする活動に取り組んでまいりたいと考えております。

皆様におかれましては、これからも「ピピオの家」と同様に、暖かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

理事長 鵜野 一郎

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局  
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号  
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

## 会員の皆様へのご挨拶～第13回～掛幸太

みなさまにはいつもお世話になっております。

平成26年度定時総会において理事に選任されました、掛 幸太と申します。職務に精一杯励みますので、どうぞよろしくお願い致します。

みなさまもご存じのとおり、子どもシェルターピピオの家は、演劇を機に誕生致しました。私は、この演劇に第1回目より参加をし、現在5年を数えております。

「思いは形になる。」演劇を通じてそのことを強く実感しています。その「思い」は決して一人の思いではありません。演者、裏方、監督、演出、脚本といった、芝居に携わる多くの人の思いが重なり合い、ひとつの形を作っています。

これは芝居に止まるものではありません。子どもへの関わり方、子育てにもつながるものと思っております。

一人の子どもを社会へ羽ばたかせるためにどれほど多くの人に関わっていることでしょうか。一人の子どもを育てるということにどれほど多くの困難や悲しみ、喜びや楽しみが伴うことでしょうか。そうした状況にあって、子どもを思い、ピピオの家を守ってくださっているみなさまのご尽力に心より感謝申し上げます。

今また、新しい思いが形になろうとしています。「自立援助ホームはばたけ荘」の開設です。ここでの出会いは、子どもたちの未来を拓くものとなると考えております。

最後に、ピピオにやって来る子どもたちに届けたい思いを綴ります。

「あなたには私たちが居る。目の前に居なくても、あなたを思う人が居る。」

最初は届かない言葉かもしれません。しかし、そうした大人が居ることを心に留めておいて欲しいと思うのです。それが私の思い、みなさまも同じくするであろう、私たちの思いです。いつか伝わる日が来ると信じています。

みなさまどうか子どもたちのはばたきを一緒にお支えください。

NPO法人ピピオ子どもセンター 理事 掛 幸太

## NPO法人ピピオ子どもセンター 役員名簿

第4回通常総会における新たな役員を選任等により、役員体制が次のとおりとなりました。

理事長	鵜野 一郎 (弁護士)
副理事長	中本 忠子 (元保護司)
理事・事務局長	那須 寛 (弁護士)
理事	磯辺 省三 (広島文化学園大学教授)
理事	上野 和子 (NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長)
理事	大石 結加 (広島県社会福祉士会 子ども家庭支援委員)
理事	掛 幸太 (司法書士)
理事	桑原 正彦 (小児科医)
理事	戸田 慶吾 (弁護士, 広島修道大学法務研究科教授)
理事	平谷 優子 (弁護士)
監事	奥 兆生 (公認会計士・税理士)



## ＝スタッフ通信 第6回＝

「ピピオの家」スタッフのOです。

今回は、子どもたちとの日々の会話の中で、心に留まった(チクリと突き刺さった)ものをご紹介します。

●幼い時からお母さんに振り回されて、落ち着いて生活することができなかったAさん。お母さんとの関係に悩んでいました。

「昨日ママの夢を見たんよ。すごく優しかった。顔とかはそのまんまであんなママだといいなあ。普通のママのところに生まれたかった。でも、どんなママでも、自分にはあのママしかおらんし。」

●物心ついてからほとんど施設で生活し、家族と過ごした時間の少ないBさん。食事のメニューのリクエスト、好き嫌いを色々言った後でぼつり。

「18年生きてきて、今が一番わがママ言って甘えてるなあ。今まで誰もわがママ聞いてくれる人いなかったもん。」

●親の都合で転居を繰り返してきたというCさん。小学校時代も毎年のように転校し、友だちもできず、親しい先生もいない中で、一人だけ今でも覚えている先生がいるそうです。

「その先生は、学校に行けなくなって家の布団にもぐりこんで私の背中をなでながらずっと話を聴いてくれた。すごくあったかい手だった。子どもの時に自分を大事にしてくれる人に一人でも出会えるかどうかって、その後の人生ですごく大きいと思うよ。今でも何かの時に思い出すと力が湧くし。」

●自分の担当の弁護士の先生に、ぶっきらぼうな態度を取ったり、きつい口調で話す事も多いDさん。電話でさんざん文句と要望を言った後でこっそりと。

「あんなこと言ったけど、ほんととは感謝しとるよ。あの時迎えに来てくれなくてピピオに来れなかったら、一人でどうなったかわからんもん。」



〈番外編〉

「トトロの時代に生まれたかったわ〜」(携帯のない時代なら、携帯のことでこんなに悩む事なかったとのこと。確かにのどかな子ども時代を過ごせました。)

「集団的自衛権て何？」(突然の質問にスタッフはあたふた・・・わが身の不勉強を痛感させられました。)

子どもたちから投げかけられる様々な言葉。ドキッとしたり、ウルッときたり、イラッとしたり、ほのぼのしたり、返す言葉が見つからなかったり・・・子どもたちの言葉をまずはしっかりそのまま受け入れることを心掛けているつもりでも、いいかげんに聞いていたり、つい知らないことを言ってそっぽをむかれることもあります。

子どもたちが投げってくる色々な言葉のボールをがっちり受け止めることができる、大きくて頑丈なミットがほしいですね。自分の方からどんどんボールを投げたくなるおしゃべりな私には、基本のキャッチボール練習の日々がまだまだ続きます。どんな速球も変化球も暴投も！受けられる名キャッチャーを目指していきたいです。野球が得意な方からのアドバイス、よろしくお願いします。



# ボランティアスタッフ養成講座に参加して

平成26年6月11日から7月30日にかけて開かれた、第5回ボランティアスタッフ養成講座に参加しました。

今回のボランティアスタッフ研修には、大人の方だけではなく、大学生の皆さんもたくさん参加してくださっていました。

私は、第3講と第8講に参加しました（司会をしていました）。

第3講の研修は、児童相談所と一時保護所における実情について、広島市児童相談所支援課長の紺田礼子さん、主任保育士の小笠原豊子さんから話をいただきました。一時保護所にいる子どもたちは、自分たちをきちんと見てもらえると感じると、キラキラととても喜ぶのだそうです。一人一人の子どもたちが、個人として尊重され、愛されたいと願っていることが、2時間のお話の端々から伝わってきて、切ないような気持ちになりました。そういえば先日、私が担当している女の子が真新しいリストカットの傷を作っていたので、「どうしたんそれ」と声をかけたら、「よくわかったね！」とちょっと驚いていました。こんな何気ない声掛けでも、役に立つのかもしれない。いつか、リストカットしたいという気持ちが起こらなくなるとういなと思いました。

第8講の研修は、性的虐待の基礎知識と子ども援助の基本的視点というテーマで、広島国際大学の下西さや子さんにお話しいただきました。講演のテーマは非常に重いもので、性被害を受けた子どもたちの心の傷の深さがありありと伝わってきました。そして、性被害を受けた被害者のケアの体制、特にワンストップセンターなどの体制が整っていないこともよくわかりました。講演が終わっても、質問をする人が絶えなかったもので、皆さん、講演の内容に非常に興味を持たれたのだと思います。

第8講の講演の後には、懇親会も開かれました。スタッフの方や、ボランティアの方、大学生の皆さんといろいろな話を聞いて、充実した時間を過ごすことができました。大学生の皆さんが、ピピオの自立援助ホームの名称を考えて、スマホでラテン語を調べてくれたりして、若者の情報力に驚嘆しました。

今回の研修では、12名の方がボランティアスタッフとして登録してくださったと聞いています。ボランティアとしてピピオで実際に子どもたちと触れるのは、研修とはまた違う悩みにぶつかることもあると思います。それでも、子どもたちのキラキラしたところに触れると、私たちが元気ができるので、一緒に頑張っていきましょう！！

（弁護士 寺西環江）

## ■第5回ボランティアスタッフ養成講座の概要

（ボランティアスタッフ養成講座は公益財団法人マツダ財団とピピオ子どもセンターとの共同事業である「スタートラインプロジェクト」として実施しています。）

講	開催日	テーマ	講師
第1講	6月11日	ガイダンス（子どもシェルターを通しての居場所のない子どもたちへの支援について）	鵜野一郎理事長
第2講	6月18日	児童虐待と発達障害～社会性発達とコミュニケーションの視点から	県立障害者療育支援センターわかば療育園園長 河野政樹氏
第3講	6月25日	児童相談所について 子どもたちのおかれた現実と関わる大人の留意点	広島市児童相談所支援課長 紺田礼子氏 広島市児童相談所主任保育士 小笠原豊子氏
第4講	7月2日	居場所のない子どもたちの実情と関わり方	中本忠子理事 田村美代子氏
第5講	7月9日	シェルターに関する法制度について	戸田慶吾理事
第6講	7月16日	虐待を受けた子ども達への支援の在り方	平谷優子理事
第7講	7月23日	思春期の子どもの心理	磯辺省三理事
第8講	7月30日	性的虐待の基礎知識と子ども援助の基本的視点	広島国際大学教授 下西さや子氏

# 第4回通常総会のご報告

5月18日に広島弁護士会館で第4回通常総会を開催し、会員の皆さまに平成25年度の事業報告をおこないました。平成25年度における「ピピオの家」への新規入居者は15歳から18歳までで10名でした。入居期間は最短が3日、最長が約3か月でした。退居した8名の退居先は親や親族等へ4名、施設入所2名、住み込み就労1名、一人暮らし1名でした。

また、引き続き平成25年度の収支決算の報告、平成26年度の事業計画・収支予算案の説明及び役員選任の提案を行い、いずれも承認可決されました。

総会開催後には懇親会も開催され、会員の皆さまと交流いたしました。日頃は会員の皆さまと顔を合わす機会は多くはありませんが、会員の皆さまの子どもたちに対する温かい気持ちに接することができました。

会員の皆さまのご意見をお伺いできる数少ない機会ですので、今後もお時間がございましたら、総会にご出席くださいますようお願いいたします。

2013年度 ピピオの家の入居者数 11名（全員女子／うち、2013年度中の新規入居者10名）

●入居時の年齢  
(新規入居者の内訳)

15歳 3名  
16歳 2名  
17歳 4名  
18歳 1名

●入居期間  
(新規入居者の内訳)

3日間 1名  
14～18日間 2名  
約1か月 1名  
約1.5か月 1名  
約2か月 4名  
(うち3名は3月末時点で、入居中)  
約3か月 1名

●退居後の行き先  
(2013年度内の退居者の内訳)

親や親族のもとへ 3名  
元養父のもとへ 1名  
児童養護施設入所 1名  
児童相談所(一時保護) 1名  
自分で家を借りて自立 1名  
住み込み就労 1名

## ISPCAN・JaSPCAN名古屋大会に参加しました

9月14・15日に名古屋国際会議場で開催されたISPCAN世界大会、JaSPCAN学術集会に参加してきました。日本で初めて開催されたISPCAN世界大会ということで、世界各国の方が会場にこられ、会場内で様々に開催される講演やシンポジウムなども同時通訳で行われるなど、例年になく雰囲気でした。

基調報告では、9月4日に発表されたばかりのユニセフの『子どもへの暴力防止キャンペーン レポート 統計版 “白昼の死角”』についての概要説明や、『子どもへの暴力防止キャンペーンレポート：予防のための戦略』を踏まえた、今後の取り組みの指針について報告がありました。

印象的だったのは、9月15日には、同月13日に開催されていたユース・フォーラム（若者たちによる虐待防止などの問題に関する会議）の内容を発表するユース・プレナリーがあり、子どもたちから、「会議をするだけになっていないか」「具体的な活動につなげてほしい」というメッセージがありました。子どもの虐待がない社会の実現が思うように進まない中、現状に甘んじることなく、取り組んでいく姿勢を示さなければならぬと感じました。

(弁護士 砂本啓介)

\* ISPCAN：子ども虐待防止世界会議、JaSPCAN：日本子ども虐待防止学会